

大谷學報

第五十七卷 第三号

昭和五十二年十一月三十日発行

芭蕉の聴覚……………	山本 唯一 (1)
元朝仏教の様相……………	藤島 建樹 (14)
——中峯明本をめぐる居士たち——	
十二分教と三藏・二藏との 相撰関係について……………	舟橋 尚哉 (27)
——「大乘莊嚴經論」「大乘阿毘達磨集論」 「瑜伽論」を中心として——	
親鸞と危機意識……………	安富 信哉 (40)
——回心の前景——	
新版『ジャン・サントゥイユ』の リラについて……………	加来 一丸 (53)
春季公開講演会要旨	
無我と縁起の理解をめぐるって……………	昭谷大学 教授 武邑 尚邦 (64)
——仏教者の現代への提言——	
ドイツ近代抒情詩の変遷……………	昭谷大学 教授 谷 友幸 (66)
彙報……………	(70)
博士学位論文審査要旨……………	(1)

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷大学研究年報 第二十八集

妙法としての円融三諦とその思想的背景

—法華玄義研究序説—……………福島 光哉

ソクラテスと学……………箕浦 恵了

親鸞の主体性論序説……………小野 蓮明

中世末期における蓮如像の形成……………大桑 斉

—願得寺実悟の場合—

アメリカカ公教育の成立過程……………田中圭治郎

—その教育史的把握—

大谷大学研究年報 第二十九集

「竊以」の教学……………広瀬 杲

—『教行信証』における三序の意義—

歴史の神話論的考察……………古賀 武麿

—特にM・ユリアーデの諸論に関して—

仏日明教契嵩伝私考……………安藤 智信

子規歌論の継承と発展……………有田 静昭

時間論に対する大乘仏教的視点……………小川 一乗

—月称造『四百論釈』第十一章「破時品」の解説—

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

Bashō's Audio-perception *Yuuitsu Yamamoto* (1)

One Aspect of the Yüan Dynasty Buddhism

—Lay Buddhists around Chung-fêng

Ming-pên *Tateki Fujishima* (14)

The Relationship of Dvadaśāṅgadharmapracāsa to the
Tripiṭaka and Śrāvaka-Bodhisattva-piṭaka

—with special reference to the

Mahāyānasūtrālaṅkāra, *Abhidharmasamuccaya*

and *Yogācārabhūmi* *Naoya Funahashi* (27)

Shinran and his Crisis Consciousness

—Foreground to his conversion *Shinya Yasutomi* (40)

Sur les descriptions de lilas dans la nouvelle

version de «Jean Santeuil» *Hitomaru Kaku* (53)

Resumés of Otani Society Public Lectures given

in Spring, 1977. (64)

Miscellaneous

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・史学・文学並びにこれに関連する學術の研究と、その発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要な事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

第六条 会長には大谷大学学長が当り、

会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第九条 会員の会費は年額金壹千五百円とする。

第一〇条 1、本会の経費は会費をもつてこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第十一条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十二条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和四十八年

四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員 岩見 至 大屋 憲一

柏原 祐泉 佐々木教悟

長崎 法潤 名畑 崇

広瀬 英一 藤原 幸章

箕浦 恵了 山本 唯一

昭和五十二年十一月三十日発行

大谷学会

編集兼 北 西 弘

印刷者 西村 七兵衛

京都市北区小山上総町
大谷大学内

発行所 大谷学会

振替 京都 一八三九三番
電話 〇七五 四三三三二代
郵便番号 六〇三